

# 町内公民館との連携（いたくらいぶラリー・チャレンジ・ザ・よみんご）、小小連携授業

群馬県 板倉町立東小学校

## 基本データ

所在地	邑楽郡板倉町海老瀬 4822
児童生徒数	260人
教職員数	33人
蔵書数	9,355冊
年間貸出冊数	81,020冊

## テーマ・活動のねらい等

【テーマ】公共図書館、地域との連携体制、ネットワークの構築

【活動のねらい】

- (1)いたくらいぶラリー・チャレンジ・ザ・よみんご  
地域の公民館（図書館の役割）と子どもたちを繋げることで、児童生徒の地域との関わりを増やすことや、公立図書館を身近なものに感じさせ、学校から離れても生涯「本に親しむ態度」を身に付けさせることを目指した。
- (2)小小連携事業  
本校が行ってきた図書館教育の取り組みを町内小学校に広め、板倉町内の図書館教育の底上げを図った。また、図書館を活用した学習を通して児童の情報リテラシーを育成し、先生方が授業に体験・参観することで、図書館教育の理解を深めることを目指した。

## 取組・活動の概要

### (1) いたくらいぶラリー・チャレンジ・ザ・よみんご

※「よみんご」とは、読む+ビンゴの造語

【対象】板倉町内の小中学生

【時期】夏休みとその前後1週間程度

【内容】

- 板倉町内の公民館と小・中学校が協力して行うイベント。
- よみんごカードのマスには、書籍のラベル番号や、借りた場所（学校・公民館）に応じて押印してもらえるマスが25マスあり、3ビンゴすると、町から景品がもらえるイベントを行った。



よみんごカード

### (2) 小小連携事業（町内4校）

【対象】板倉町内の小学生

【時期】年間を通して（本校の場合は2年間継続）

【内容】

- 板倉東小学校の学力向上特配が、板倉町内4校の小学校で各学級週1回ずつ図書館を活用した授業を行った。  
※他校での授業は、主に2年～5年



小小連携事業の授業の様子



小小連携事業の授業の様子

#### 【授業例1】

- 光村図書3年「本を使って調べようー里山は、未来の風景ー」
- 指導体制は、特配教諭T1・司書T2・担任T3によるチームティーチング
- 「里山は、未来の風景」の本文から、気になる言葉やワードを抜き出し、その言葉を調べるのは「事典・図鑑・科学読み物」のどれが一番ふさわしいか考え、実際に調べる活動を通して、図書館の工夫や本での調べ方を学ぶ。

#### 【授業例2】

- 光村図書4年「わたしの研究レポート」
- 指導体制は、特配教諭T1・司書T2・担任T3によるチームティーチング
- 身近な事柄から、もっと詳しく知りたいと思うことを「テーマ(問い)」として決め、百科事典や図鑑、科学読み物を活用しながら複数の書籍で調べる活動を通して、引用の仕方や出典、報告書(レポート)の書き方を学ぶ。

#### 【授業例3】

- 光村図書5年「広がる、つながる、わたしたちの読書」
- 指導体制は、特配教諭T1・司書T2・担任T3によるチームティーチング
- 自分が読んでよかったと思う本を人に勧める活動を通して、図書館や書店の工夫や勧め方(ポスター・ポップ・帯など)それぞれの工夫(相手や目的)を知ると同時に、著作権についても正しい知識を身に付ける。

### 取組・活動の工夫や特徴

#### (1) いたくらいぶらりー・チャレンジ・ザ・よみんご

- 学年に応じて、手に取って欲しい分類(4類・5類など)や書籍マーク(宮沢賢治・安房直子・伝記など)を項目として設定し、マスに入れる。
- 公民館(図書館)に行かなければならないように、公民館でしか押印できないマスを作る。

#### (2) 小小連携事業(町内4校)

- 司書だけでなく、各校の担任(教科担当)も授業にT3として必ず入る。
- 司書と打ち合わせの時間を必ず作る。
- リテラシーだけを取り出して指導するのではなく、年間指導計画に沿った形で、国語の単元計画などに盛り込む。

### 取組・活動の成果や今後の展望

#### (1) いたくらいぶらりー・チャレンジ・ザ・よみんご

- 夏休み以外でも、児童生徒が公民館(図書館)を利用する率が高くなった。
- 児童生徒の読む(借りる)本の幅が広がった。

#### (2) 小小連携事業(町内4校)

- 図書館を活用した授業を行ったことで、町内の先生方の図書館教育に対する意識が変わった。
- 児童の図書館に対するイメージが、「本の貸し借りをするところ」だけでなく、「学習するところでもある」という意識が変わった。
- 児童に情報リテラシーが身につく、授業での図書資料を活用した学習がスムーズになった。